

「クラウドコンピューティングと北海道の可能性」

アドバンスペイ株式会社 代表取締役
プライベートクラウド研究会 北海道支部 支部長
勝野 直義(かつの・なおよし)



略歴:1981年～2003年日本電信電話公社、日本電信電話㈱、NTTコムウェア、NTTコムウェア北海道勤務、2003年～2005年アイピー・テレコム㈱(現在ジグソー㈱)・営業統括部長、2006年～2008年㈱ワイズノット・北海道ブロック長、2008年に現在のアドバンスペイ㈱を起業し、現在代表取締役。

1. はじめに

IT関連の仕事をしているとクラウドという言葉がいつも耳にしているが、一般の利用者(以下、ユーザ)にとっては、まさに雲を掴むような話と揶揄されるほうが多いのではないかと思う。

「コンセントにさせば電気が使える」、「受話器をあげれば遠くの人と話ができる」、というように手元にあるパソコンをインターネットに繋げれば様々なアプリケーションやサービスを使えるようにクラウドはインフラになりつつある。特にクラウドの特徴的な部分は、それらのサービスを提供している各種コンピュータがどこの国にあるのか？などを気にせず利用できる。つまり、首都圏から離れたところで、まさにITを活用した北海道でのクラウドビジネスの可能性を感じている。

2. オープンソース・ソフトウェア

OSS(オープンソース・ソフトウェア:以下、OSS)について少しだけ触れておく。インターネットを支えているのはOSSであると言われてるように、クラウドの世界でもOSSは切っても切り離せないものとなっている。ソフトウェアはソースコードと呼ばれる設計図にあたるものが公開され、ソースコードを自由に転用、改造などが可能であり、著作権(copyright)と逆で copyleft と呼ばれる考え方がベースになっている。2次利用も含め自由に利用する権利、いわゆる「人類共有の財産的な考え方」に基づいている。各OSSはコミュニティと呼ばれる世界中の技術者により開発・改造され、管理者によって様々なチェックが行われたのち、インターネットにて公開されている。

3. 技術者

札幌市内のIT関連企業は600～700社といわれるほど多い。OSSは自己責任であるがフリー(無料)に使えるため、比較的価格を抑えた開発に利用され、新たに研究開発やスタートアップの際にも技術的なハードルは高くなるが、安さの面で取り組んできたのが実情であると考え。結果、札幌はOSSの技術者が比較的多い地域と言われているのかもしれない。また、OSS技術の普及や啓蒙も含めたNPO活動なども古くからおこなわれており、しっかり地域に根づいている。

4. 自治体の取り組み

札幌市ではクラウド関連の研究会として、2008年全国に先駆けクラウドビジネスの取り組みが始まり、セミナーや情報交換などが継続的に行われている。最近では札幌市以外の行政機関でも勉強会・研究会等の動きがみられる。

しかし、以前、現在世界の主流のひとつであるアメリカのクラウド事業者が日本の拠点として北海道への進出を考え、数年前にご破算になった話を行政の友人から聞いた。世界的に見ても先駆けということからか？行政が理解できなかった様子ではあるが、現在では東京を中心にそれらの派生するクラウドビジネスが立ちあがっているのも事実であり、お聞きしたときは非常に残念に思った。官に任せていただけでは進まないこともあり、民が主体で進めなければという思いを強くし、現在の様々な活動につながっている。

5. データセンタ

データセンタは、各種コンピュータなどを設置する専用の施設で、安定電源、様々な通信回線、入退室のセキュリティなどが確保され、企業のデータ資産やシステムの安定稼働が可能な施設である。北海道、とりわけ札幌市および近郊には通信キャリア系、電力系、メーカ系、行政系など、様々なデータセンタが存在しており、これらはクラウドの拠点となる設備である。

昨今話題にあがるメガソーラの計画も北海道内で多く聞かれるようになり、多くのエネルギーを必要とするデータセンタにとっては追い風になるものと考ええる。

6. 地理的メリット

特に札幌圏は風水害や地震災害が少なく停電も少ない地域であり、データセンタの運用にも適していると考えられる。逆に首都圏のデータセンタは「企業から近い」、「近いため回線速度の遅延が少ない」などのメリットはあるものの、データセンタは多くの各種コンピュータ設備から大量の熱を発生し、コンピュータが正常に動作するには強制的に冷やす必要があり、データセンタ全体の熱効率を考えると北海道のほうが「冷房効率が良い」ほか「地代(データセンタ)の安さ」、「緊急時の各種エンジン発電設備の稼働が容易」、「各種コンピュータの搬入が容易」などのメリットから、昨年11月にさくらインターネットが石狩データセンタを開所するに至った。

7. 北海道の可能性

北海道は首都圏から離れている部分は否めないが、逆に各種データセンタが存在し、多くの基盤を支えるOSS技術者、再生可能エネルギーの可能性、行政も含めた様々な取り組みから北海道でのクラウドビジネスの可能性があると考える。発展途上ではあるが、先のアメリカ企業が認めた地域であることは間違いない。電力も含めインフラとしてのいわゆるハコはそろっているため、あとはどうビジネスとしての味付けをするかにより可能性は広がると考えている。

8. おわりに

「ユーザーにとってはクラウドを有効に活用してほしい」、「IT企業にとっては今後のビジネスの種や首都圏企業との連携・協業の新規ビジネスの機会にしてほしい」、という思いから昨年12月にクラウドのイベントを開催した。今年度は、北海道大学と共同開催により規模を拡大して「Cloud Week 2012 @ 北海道大学」として8月28日から3日間のイベントとして開催する。クラウドにはメリット、デメリットもあるが、できる限り客観的な視点で聞いてほしいと考え幅広い講師を集めており、今後クラウドを有効活用していただければ嬉しく思う。